

揺るぎなく続く「SKK」ブランド 精機工業所

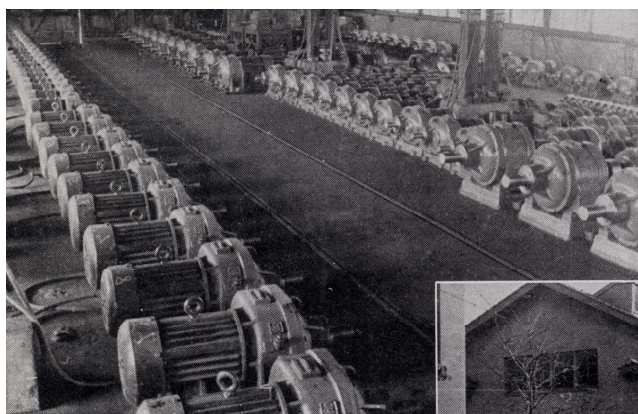
かつて、阪急線と産業道路が交差するあたりに、精機工業所の工場がありました。今は、跡形もなくマンション群になっています。株式会社精機工業所は大正11年（1922年）に創業以来、85年間にわたって自動車などに使われるギヤードモーター・減速装置の開発製造を続けてきた業界のパイオニアです。ギヤードモーターとは、モーターと減速機が一体になったものです。ギヤードモーターは、オイル潤滑タイプ、グリース潤滑タイプがあって、脚取付型とフランジ取付型、高速型と低速型に分かれます。さらに、屋外（JPW44）モーター、バンド電圧モーター（マルチ電圧対応）、単相モーター、安全増防爆屋外（eG3）モーターなど様々な製品群に分類できます。1922年には初代A型ギヤードモーター、1954年F型、1965年AF型、1981年SF型、1983年MFG型を開発しました。SFやAFシリーズは、オイル潤滑タイプ、MFGやAシリーズはグリース潤滑タイプです。独自の歯車工学、高度な技術水準、豊富な実績と経験の蓄積、先鋭の機械設備から生まれた精機工業所の製品は、国内・海外のあらゆる産業分野で広く採用され、高い信頼を集めていました。

しかし、精機工業所は2007/10/1付で植田歯車精機工業所に吸収合併され、さらに同時期に植田歯車精機工業所は株式会社セイサと合併しました。セイサ本体は、1916年（大正5年）株式会社大阪製鎖所として設立し、1956年（昭和31年）神戸製鋼所のグループ企業となったのち、1999年（平成11年）離脱して住友重機械工業のグループ企業となりました。さらに、2006年（平成18年）には、上場廃止、株式交換により住友重機械工業の完全子会社となりました。そして、2007年（平成19年）植田歯車精機工業所と合併し、2016年（平成28年）に会社名を株式会社セイサから住友重機械ギヤボックス株式会社に変更して、現在に至ります。

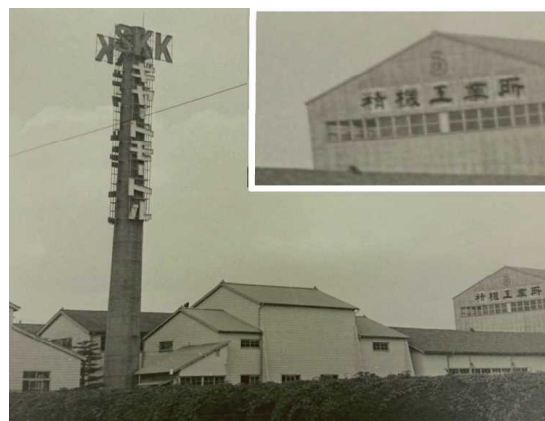
このように、合併やグループ離脱・加入、子会社化など様々な合従連衡・再編を繰り返す企業も数多いです。そして、その過程で、社名がなくなったり工場が閉鎖、廃止されることも度々です。また、企業に限らず「上坂部小分合図」にみるように、学校の歴史も同様です。しかし、関わる人々の想いは消えることなく、社名（校名）や沿革、製品も名残惜しく、簡単に捨て去ることができません。精機工業所のホームページは、サンプルページと表記の上で現在存在します。そしてセイサも住友重機械ギヤボックス・セイサ海外部（輸出部門）として、その名を留めています。さらに精機工業所は吸収合併されましたが、その卓越した技術は継承されています。SKK製品は、国内・海外のあらゆる産業分野で広く採用され、高い信頼を集めるが故に、「SKK」のブランド名は揺るぎなく現行製品においても継続使用されているのです。



ギヤシービング及びクラウニングマシン 昭和44頃



SKK式 低速度モートル 昭和戦後期



精機工業所 SKKの煙突 昭和40頃

参考資料 アツミネットSKKサンプルページ セイサホームページ Wikipedia「住友重機械ギヤボックス」

写真 右上 左下 尼崎市立地域研究史料館所蔵 右下 上坂部小学校蔵 社会科資料